



兵庫縣姫路護國神社

ご創祀百二十五年・ご鎮座八十年

明治維新百五十年

記念大祭

秋季慰霊大祭

(ご創祀百二十五年・ご鎮座八十年)

平成

30年 11月2日(金)

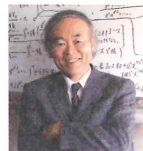
- 祭典斎行 10:30~12:00
※ 祭典終了後、軽食用意いたしております
- 陸上自衛隊 銃剣道演武奉納
・第三師団音楽隊奉納演奏
13:00~(1時間程度)

明治維新百五十年祭

平成

30年 11月3日(土) 祝

- 祭典斎行 11:00~12:00
※ 祭典終了後、軽食用意いたしております
- 藤原 正彦 氏 講演「明治の精神」
数学者・お茶の水女子大学名誉教授 「国家の品格」著作者
13:00~



記念大祭2日間実施 姫路に駐屯していた旧軍第十師団の歴史展示(於:参集殿)

○ 11月2日 9:00~17:00 11月3日 9:00~16:00

兵庫縣姫路護國神社

兵庫県姫路市本町118 TEL.079-224-0896 himejigokoku@gmail.com

<http://www.himeji-gokoku.jp>

護國神社の成り立ち

護國神社のご祭神は明治のご維新と大きくかかわりがあります。

本年は明治元年（一八六八年）より百五十年、兵庫縣姫路護國神社の祭神が始まつて百二十五年、現在の社殿が建立されて八十年の節目を迎えました。

日本で最古の歴史書古事記序文には「稽古照今」という言葉が出てきます。いにしえに学んで将来の指針を見出すという意があります。節目の時こそ正しい歴史を振り返り、未来へつないでいかねばなりません。

近年は神社ブームでご朱印を求めた方も土日記が姫路護國神社でも土日記になり、ますと一日に百人近くの方がいらつしやいます。そこで全国護國神社専用の朱印張を作成、お頒ちしています。その朱印張の冒頭に護國神社のことをわかりやすく次のように説明しています。

『靖國神社と護國神社は、愛する家族や国家、郷土の安寧と繁栄を願ひながら若くして尊い命を捧げられた先人の神霊を御祭神として、期にかけて「招魂社」として創建された神社で、その御祭神のことを私たち日本人は、崇敬と感謝の心をこめて「英霊」とお呼びし、丁重にお祀りしてきました。各地に鎮座する護國神社は、その鎮座地ゆかりの英霊を

お祀りし、全国の英霊をお祀りする神社が東京九段の靖國神社になります。招魂社は、昭和初期の頃には、日本全土に百社以上が創建されていましたが、昭和十四年に、神社を当時管轄していた内務大臣の指示により、主な招魂社が、各道府県を代表する護國神社として整備され「内務大臣指定護國神社」となりました。この制度は、大東亜戦争終結後に廃止されましたが、その時の護國神社は現在も地元の方々から厚く信仰され、お祭、日々の暮らしの中の諸祈願などに参拝されています。』

明治から大正、昭和にかけては、明治維新の大義に基づき、靖國神社、湊川神社をはじめ、明治神宮、樞原神宮、乃木神社、南洲神社、東郷神社、各地区の招魂社そして護國神社が設立されていきます。

地元姫路藩は幕末、酒井家が藩主でした。酒井家は徳川幕府の譜代大名で、徳川十一代将軍家斉の息女喜代姫が酒井忠孝の室となつて、当時の勤皇思想からみれば朝敵の勤王でしたが、維新の志士を多く輩出しました。

それは、酒井家の老職で在った河合隼乃助（寸葱）の尊皇思想や愛国精神で彼が開校した仁寿山費における子弟教育の影響が多々である。

ります。自由な校風のせいか尊皇攘夷を掲げて世の中を変えようとした人たちが育ちました。江戸では安政六年（二八五九）、幕府が尊王攘夷など時事を議する者たちに対して安政の大獄を行いました。姫路藩でも同様に元和元年（一八六四）十二月二十六日姫路藩獄舎（現関西電力姫路支店北側大蔵公園）にて斬首（河合伝十郎・江坂栄次郎・自刃（河合惣兵衛・松下鉄馬・伊舟城源一郎・市川豊一・萩原虎六・江坂元之助）や家名断絶、蟄居謹慎など三十数名が処罰される所謂「甲子の獄」が行われました。

この折の死没者と、生野銀山に義兵を起こした志士、京都池田屋事件、寺田屋事件などで亡くなった郷土の志士が、兵庫県招魂社の最初の祭神です。明治維新の先駆けとなつた生野義挙で最後の戦いをした兵庫県朝来町山口には山口護國神社が建立されています。また、明治維新百年の昭和四十三年には姫路郷友の会の方々が中心となって、外堀公園の河合惣兵衛顕彰碑の再建復元や大蔵公園の勤皇八志士終焉地の碑を整備されました。

現在の大手前公園かつての城南練兵場では明治二十六年ころより招魂祭が行われていましたが、現鎮座地が朴されて社殿が建立されました。昭和十四年に完成し、兵庫県招魂社、後に兵庫縣姫路護國神社となります。幕末の志士をはじめ兵庫県に本籍を持つ戊辰の役以降、

日清日露戦争、満州事変から大東亜戦争に至るまで国を殉じた兵士、看護婦、軍属を合祀しました。昭和十六年陸軍編成替えなどの為、神戸市の現王子動物園近辺に神戸護國神社が建立されました。神戸の護國神社は残念ながら神戸空襲で焼失しましたが昭和四十年神戸市灘区に再建されました。姫路は昭和二十年六月三日日京口駅西の川西航空機が爆撃されました。そして同七月三日深夜、焼夷弾爆撃で市内の四〇％の戸数が焼失しましたが、姫路城に落ちた焼夷弾は不発で火災を免れ、また、城下まじかの兵庫縣姫路護國神社も無傷で残りました。しかし、敗戦後、苦難の道を歩むことになりました。

日本を占領した連合国軍最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）は、全国の神社のうち、特に靖國神社や護國神社はより軍色が強いとの判断で廃止の方向で進んでいきましたが、占領政策を策定するうえで、研究を重ね様々な意見を聞き、また当時の日本の学者や神職を含む宗教的指導者たちの懸命な努力により解散を免れます。

当時ローマ教皇庁代表であり上智大学学長でもあつたブルーノ・ピッテル神父とメリノール宣教会のパトリック・バーン神父は、マツカーサーに意見を求められ「いかなる国家も、その国家のために死んだ戦士に対して、敬意を払う権利と義務がある。それは、戦勝国が、

敗戦国かを問わず、平等の真理でなければならぬ」と進言し靖國神社の存続を嘆願しました。また、社内部の関係者たちは受動的にその措置を待っていたのではなく存続のため様々な知恵を絞っていました。

ただ大部分の神社が宗教法人として存立を許されましたが、靖國神社や、護國神社は一番最後になりました。多くの護國神社がそうであつたように、兵庫縣姫路護國神社も兵庫県白鷺宮と社名を変更し存立の道を探ります。また、神社の存在する土地についても、当時の公職者や神社役員として神職の努力により神社に払い下げられることとなります。ただ、神田や隣接地は没収となりました。

昭和二十六年九月八日に署名され、昭和二十七年四月二十八日に発効したサンフランシスコ平和条約以降に、再び兵庫縣姫路護國神社と復称されます。帰国された戦友、ご遺族が懸命に護持され、節目には記念大祭を斎行し、またご鎮座五十年を記念して、本殿以下の始めてのお屋根葺替などの修復事業を平成二年に見事完遂いたしました。さらには崇敬奉賛会が設立され、近年は若い世代の方々が集うようになりました。

護國神社の成り立ちを振り返ることは近代史を学ぶことにもつながります。先達の残された尊い神社を今後とも共にお守りしてまいりましょう。

河合傳十郎命
江坂栄次郎命
江坂元之助命
松下鉄馬命
伊舟城源一郎命
河合惣兵衛命
萩原席六命
市川豊次命

明治維新の郷土の
ご祭神二十二柱

甲子の獄
生野義挙・池田屋事件
・寺田屋事件など

今井三郎右衛門命
千賀九左衛門命
高橋甲太郎命
千葉郁太郎命
高橋又次郎命
多田弥太郎命
黒田與一郎命
中島太郎兵衛命
太田六右衛門命
中條右京命
仲井万太郎命
境野求馬命
高忠兵衛命